

立沢里山

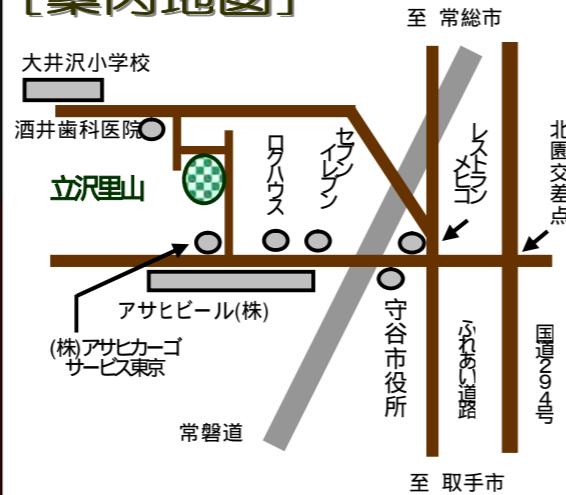
平成18年5月21日 里山新聞 第2号

発行：立沢里山の会 代表 鈴木 榮
 問い合わせ先：事務担当
 須賀（守谷市役所内 45-111 内線 222）
 立沢里山ホームページ
<http://www3.ocn.ne.jp/tatuzawa>

～目次～

- 1 里山祭り開催
 野で遊ぶコーナー
 野に学ぶコーナー
 野を食すコーナー
- 2 新聞記事
- 3 ウェルカム案山子
- 4 田んぼの学校
- 5 ご苦労様でした

【案内地図】



「立沢里山新聞」の記事をお願いします
san-seino@hb.tp1.jp 清野

よく見ていると、お母さんの方が気合いが入り最後まで粘っていたようでした。
 また笹舟、草笛教室は小さな子供連れの家族で賑わいました。最近では親も初めての経験らしく子供と一緒に感心しており、先生役の会員はちょっと得意げな顔でした。



2) 野に学ぶコーナー

田植え体験コーナーでは小さな子供も多く、プロ農家の海老原農会長自ら指導員をやっていただきました。

里山クイズラリーではグループの子供達がスタートの登録をした後、ゴールイン賞をめざして元気よく出発です。普段何気なく見ている草も名前といわれると自信がなくなります。



3) 野を食すコーナー

里山食堂のメインメニューはあちこちに生えている野草のテンプラです。本日のお品書きはセリ、桑の葉、ヨモギ、山ウドなどです。

用意したセリが売り切れて、これまた急遽里山に分け入って山菜採りの補充作業です。

内々で試食を楽しみにしていたスタッフまでは残念ながら廻ってきませんでした。昔ながらの杵と臼による餅つきではお父さん達と仲良く挑戦してかけ声が上がります。また、すべてのコーナーは無料参加で行いましたが、活動資金確保の一環として、焼きソバや焼きうどん、つき立て餅、里山おにぎり、手打ちそばのチャリティー販売を行い、来場者への協力をお願いしました。

祭りには会田市長、助役も来場して、市民との交流に参加していただきました。小さな子供は親子連れで、大きな子供達はグループで多く来ていましたが、中には老人夫婦や身体障害者の方も散歩の途中なのか見かけました。普段、家庭内でなかなか出番のないお父さんも子供時代を思い出して思わぬ活躍でき、親子のふれあいも深まったのではないのでしょうか。守谷は郊外にも広い田んぼや里山がありますが、団地内で歩いて来ることが出来る身近な里山の存在も大切だと実感しました。そしてスタッフにとって何より嬉しかったのは参加した子供達の楽しそうな笑顔でした。

1 里山祭り開催！

平成18年5月14日(日)「第一回里山祭り」が立沢里山と周辺を会場に開催されました。

前日は準備作業の途中から雨が降りだし天気を心配していましたが、祭り当日は朝から晴れ上がり絶好のお祭り日和となりました。

会場の歓迎係りは沿道に勢揃いした地元の小学生手づくりの「ウェルカム案山子」(右写真)です。

午前10時に鈴木里山の会会長、海老原農業委員会会長などの挨拶で開会し、早速それぞれのコーナーでイベントが始まりました。



1) 野で遊ぶコーナー

会場入り口の水鉄砲コーナーでは親子で早速大工作業が始まりました。始めは里山の会の会員が手取足取りで手伝っていましたが、見ていたお父さんも大勢参加して、大小様々な水鉄砲が出来上がり、水田に設置した的めがけて放水実験(左写真)が始まると、歓声が上がりました。



あまりの人気に前日用意した竹が途中で品切れ材料不足という事態になり、昼休みに急遽補充に走りまわりました。といっても近くの竹藪ですが、おかげでスタッフは昼食抜きと大変です。

またザリガニ釣り(次頁写真)では、兄弟や友人と来た子供、親子達がショウブ池や木道周辺の思い思いの場所に陣取り真剣に取り組んでいました。

ヨンさま風かかし 大井沢小



かわいい女の子風かかし 大井沢小



かわいい男の子風かかし 大井沢小



魔女風かかし 松前台小



2 新聞記事

祭りの様子は朝日新聞や守谷市広報誌の表紙でも紹介されました。

5月19日 金曜日 朝日新聞

立沢里山 (守谷市)



わがふるさと遺産

守谷市薬師台に広がる住宅地。その南東側のくぼ地に、アシが茂る？ 診ほどの湿原がある。立沢里山だ。田んぼや周囲の湿地では、ザリガニやタニシ、オタマジャクシ、小エビやカニまで見ることが出来る。

今年14日、立沢里山の会主催の里山まつりがあった。家族連れなど数百人の市民らが、草笛やさき舟つくりを教わり、ザリガニ釣りや田植え体験などを楽しみ、里山全体に子どもたちの歓声が響いた。まつりに参加した会田真一市長は「立沢里山は市民の財産だよ」と上機嫌だった。湿原は20年ほど前まで水田だったが、休耕になってからゴミの不法投棄などが続き、荒れ放題となった。湿原のすぐ横を子どもたちの通学路が通る。環境面や防犯面で問題視される場所になっていた。

このため00年12月、湿原の所有者から市が使用の承諾を得て、市と住民有志が協力してボランティア団体「立沢里山の会」(鈴木栄会長)を設立。湿原の環境美化に乗り出した。01年3月、不法投棄のゴミの山の退治に着手。最初のゴミ収集で、可燃ゴミや不燃ゴミ、空き缶など約1・3トン、さらに2トトラック2台分の粗大ゴミを回収した。

その後も木道や水路を整備しながら、ゴミ収集を続けている。「最初の2年間は、ごみ収集と草刈りが主な活動だった」と鈴木会長。

03年、上総掘りの井戸を復元した田んぼのわきに掘った。現在は田をうるおす井戸が2本ある。04年には近くの大井沢小、御所ヶ丘小、松前台小の5年生児童約200人が、7ヶ月ほどの里山の田んぼで田植えを体験。今では恒例行事となり、今年15日に田植え体験があった。

鈴木会長は「里山で作業をしていると、中学生たちがあいさつしてくる。かつて田植えをした子どもたちだ。ありがたい。こうしたことがふるさと作りになっていけば、うれしいね」と目を細めた。

(斯波 祥)

田んぼのわきに立つ手作りの案内板

ゴミ除き市民の財産に

3 ウェルカム案山子

小学校5年生の各クラスから、それぞれ工夫をこらした自作の案山子が持ち寄られました。今回は総数7つの案山子が参加し、まず5月14日は里山祭りの歓迎役として活躍し、翌15日は子供達の田植を見守り、その後は約半年間、田んぼの守り役として活躍する予定で、大変重要な役割を担っているのです。

昔ながらのシンプル
かかし(女の子)
御所ヶ丘小



レーザーラモンHG風
かかし
松前台小



昔ながらのシンプルか
かし(男の子)
御所ヶ丘小



4 田んぼの学校：小学校の田植え体験

里山祭りの翌日5月15日(月)は、里山祭りの一環として「田んぼの学校」の田植え作業を実施しました。里山近郊の「御所ヶ丘」、「松前台」、「大井沢」の三つの小学校の総合学習として正式に位置づけられた活動です。

当日も里山祭りに続いて晴天に恵まれ小学校5年生、約190人が元気に参加しました。

田んぼに足をとられ泥だらけになりながらも、沿道の案山子の応援を受けて頑張りました。



今年で3年目を迎えた田植え体験。

学校の先生もお手伝いをしている立沢里山の会員も児童への教え方が上手になり、今年は左の写真のとおり、きれいに一列になりながら植えることが出来ました。後は、豊作を祈るのみです。



不耕起栽培

右写真で手前の田植え前の水田を見ると昨年の稲株が見えます。不耕起栽培は代掻きをしないので、昨年の稲株の間に田植えをします。

元々湿田で柔らかい場所を選んだので、田植えにはそんなに固くはなかったと思いますが、「里山の会」としては初めての取り組みで結果はどうなりますか？

5 ご苦労様でした

こうして初めての里山祭りは盛会にそして事故もなく無事終了して、会員一同はとりあえず安心。みんなホッとした表情です。



14日、後片付けが終わった夕方から、近くの国際交流センター(ログハウス)にて慰労会を開催しました。

丸一日立ち通し、やや緊張し、疲れもあったかもしれませんがほぼ全員が出席。

会員一人一人から様々な感想が述べられ盛り上がった反省会となりました。

この里山祭りを
行うにあたって
みんなで約束した
ことは、自分達が
楽しめる祭りにし
ようということ
でした。

忙しかったり、天ぷらの試食が出来なかったりと、心残りもありますが、気持ちは結果オーライの祭りでした。来場者の皆様に感謝申し上げます。

